カナダのクルーズ、ウォーターフロント開発

国土交通省大臣官房参事官（運輸安全防災）付　安全防災対策官　長山　達哉
（前 在カナダ日本国大使館勤務）

1. はじめに

読者の方々はカナダと聞いてどのようなイメージを持つであろうか。大部分の方は、なんとなく米国と似ていて、寒そうな国、というイメージではないだろうか。そのイメージは概ね当たっているのだが、ではカナダの港湾と聞いて具体的なイメージが浮かぶ方はそれほど多くないのではないかと思う。

本稿では、筆者が3年間大使館員として駐在したカナダの港湾について概説するとともに、主にクルーズの状況や筆者がカナダ滞在中に訪れた港湾都市におけるウォーターフロント開発について概説する。

カナダの地図

2. カナダ概況

(1) カナダの特徴

カナダは米国の隣に位置し、人口は約3600万人と、日本の約4分の1である。国土は日本の約27倍ときわめて広大であるが、トロント、モントリオール、バンクーバーといった大都市は米国との国境沿いの南部に立地しており、国民の大部分は南部の都市に集中している。冬の期間が長く、南部地域でも多くの都市で冬季の気温はマイナス20度程度まで下がり、北部地域はそもそも冬季は生活に適さない地域も多い。

カナダはG7にも加盟する先進国であり、上記大都市を中心としたサービス業や製造業が主要産業であるが、他方で、広大な国土を背景に、原油や石炭などのエネルギー製品や、小麦等の穀物を輸出する資源国としての一面も有する。主な貿易相手国は、輸出（約4分の3）、輸入（約2分の1）ともに圧倒的に米国が主となっており、米国への依存度の高い経済構造といえる。アジアでは中国や日本が主要な貿易相手国となっており、日用品や自動車関連の輸入が多い。

(2) カナダの港湾

カナダは東西を海に囲まれ、海運による貿易が国の経済を支えている。物流の拠点となっているのは大西洋、太平洋に位置する主要18港湾（次頁図参照）であり、太平洋側の代表的な港湾であるバンクーバー港やプリンス・ルパート港は、日本との貿易の玄関口として重要な役割を担っている。大西洋側ではモントリオール港やハリファックス港がコンテナ等の貨物の取り扱いにおける主要港湾となっている。これら18港湾については、港湾公社（Canada Port Authorities）が管理を行っている。

内陸輸送については、コンテナ貨物の多くが貨物鉄道を用いて内陸に輸送されているところがカ

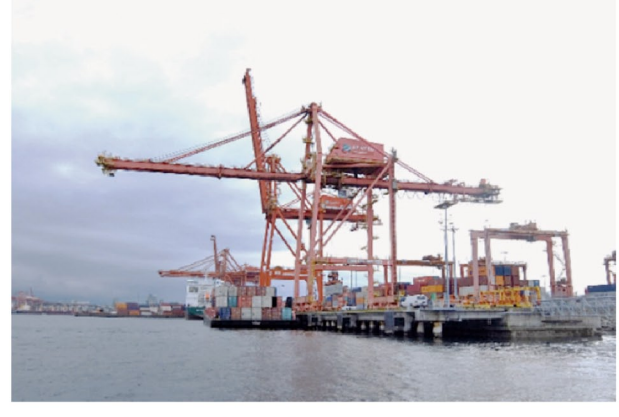
ナダの特徴である。カナダには大手鉄道会社が2社（Canadian National（CN）、Canadian Pacific（CP））あり、同社の路線はカナダを横断するだけでなく、米国の一部地域にも路線を有し、カナダ・米国間の貿易の一端も担っている。鉄道輸送では、コンテナを2段積んだダブルデッカー形式での輸送が一般的となっている。

3. カナダのクルーズ事情

カナダでは東西沿岸において米国港湾と一体となったクルーズ産業が発達している。カナダのクルーズ政策はカナダの観光ビジョン（Canada Tourism Vision）においても、特に通常アクセスが困難なカナダ北部を体験する手段として、観光振興策の一つに位置付けられている。クルーズ乗

図：主要18 港の位置図

バンクーバー港における貨物鉄道



バンクーバー港のコンテナターミナル

客数は約80万人であるが、日本のようなクルーズ乗客数に対する具体的な目標は定められていない。

カナダ西部の太平洋側では米国のアラスカに至るクルーズが最も人気が高く、米国シアトル島を起点にブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバー港やビクトリア港等を経由し、アラスカに至る航路を、8日～2週間程度で航海するコースが標準的となっている。シアトルを発着することもあり、同航路の旅客は開発の進んでいない昔の米国の姿を求める米国人の利用も多いとされている。

なお、アラスカクルーズのようにカナダの港湾から米国に海運で入国する場合、入国前に出発地（この場合はカナダ）で入国・税関手続きを済ませるのが一般的である。例えばバンクーバー港では、出発地となるクルーズターミナルとなるカナダ・プレイスにおいて、米国の税関職員による通関が行われる。このほか、機械によるパスポート読み取りによる通関も可能となっており、旅客の手続

バンクーバー港平面図とクルーズターミナル位置

バンクーバー港のクルーズターミナル（カナダ・プレイス）

カナダ・プレイスに着岸するクルーズ船

きの時間短縮に寄与している。

大西洋側でも同様に米国～カナダ間を運航するクルーズルートが形成されており、米国の拠点はニューヨーク、カナダにおいてはモントリオール港やケベックシティ港、ハリファックス港が主な寄港地となっている。

なお、2017年はカナダ建国150周年で、各地で記念イベントが行われたが、同年、モントリオール港では市街地にほど近いアレキサンドラ埠頭にあるクルーズターミナルの改修が完了し、クルーズ客の新たな受入拠点となっている。

4. ウォーターフロント形成

(1) モントリオール港

ケベック州モントリオール市は、街並みや建造物等にフランスの影響を色濃く残しているカナダ有数の観光都市である。モントリオール港は市内中心を流れるセントローレンス川沿いに発展しており、前述のクルーズターミナルは市内中心の旧市街地からほど近くに位置し、市街地と一体となってモントリオールの美しい景観を形成している。

モントリオール港には、観光の中心である旧市街地から観光客が多く訪れ、様々なイベントが楽しめるほか、買い物等も可能である。夏には埠頭にシルク・ドゥ・ソレイユ（カナダ発祥のサーカス団）のテントが設営され、賑わいの創出に貢献している。また、夜の景観は言うまでもなく素晴らしく、また、一風変わった試みとして、コンテナを活用したプロジェクション・マッピングのようなイベントも行われる。

なお、モントリオールには市内と港湾近傍を走る地下鉄が通っており、一般旅客が容易にアクセス可能である。ただし空港までは繋がっておらず、現在空港まで直接アクセス可能となる新路線を建

モントリオール港平面図とクルーズターミナル位置

モントリオール港からセントローレンス川を臨む

小型船着き場

モントリオール旧市街地

モントリオール港で上演されている
シルク・ドゥ・ソレイユ

モントリオール港の夜景

コンテナを使ったプロジェクション・マッピング

設中である。

なお、コンテナターミナル等産業関係のターミナルは市街地から離れた場所に建設されており、市街地からその姿を見ることはない。このため、物流関係のトラックが市街地を通ることは少なく、港湾機能がうまく分散されている。

(2) バンクーバー港

ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー市に位置するバンクーバー港では、クルーズターミナルとなるカナダ・プレイスを中心とした一帯に親水空間が形成されており、バンクーバーの観光の中心地となっている。2010年のバンクーバー・オリンピックの聖火台が設置されている沿岸域は、モントリオールと比べてカナダの歴史や文化を感じるような建築物は少ないものの、州都ビクトリア等に至る水上飛行機が港湾内を飛び交うなど、活動的な港湾という印象が強い。

また、港湾の入り江付近にあるスタンレー・パークは、水族館やサイクリングコースを併設し、人気の観光地となっている。バンクーバー港では、コンテナターミナルも市街地の比較的近くに建設されており、親水空間を形成する一要素となっている。

バンクーバー港には空港から直接アクセス可能な鉄道駅が近接しており、一般旅客が気軽に沿岸域に立ち寄ることが可能となっている。また、港湾近辺に繁華街（ガスタウン）が隣接しており、港湾と一体化した観光地が形成されている。

バンクーバー港(左奥がスタンレー・パーク)

バンクーバー・オリンピックの聖火台

バンクーバー港の水上飛行機

スタンレー・パークからバンクーバー港中心部を臨む

バンクーバー港に隣接する鉄道駅

ガスタウン市街地

5.おわりに

カナダの港湾は日本と同様にその歴史や文化を映し出し、美しい景観を形成している。本稿におけるカナダのクルーズ振興やウォーターフロント開発の事例が関係者の参考となれば幸いである。